

< もくじ >	
1. 2018年度定時総会・第17回大会開催日のお知らせ	1
2. 第4回研究会合同イベント 「ライフプロデュース」研究会発足記念シンポジウムの報告	2
3. 2018年連続「読書会」第4回～第5回のお知らせ	2～3
4. 研究会からのお知らせ	3
5. 各研究会の概要報告	3～4

## 1. 2018年度定時総会・第17回大会開催日のお知らせ

### (1) 2018年度総会・第17回大会の日程・会場について

1) 開催日時：2018年6月23日（土）

（第一部《総会》：10時～、第二部《大会》：11時30分～）

2) 開催場所：**駒澤大学**（駒沢キャンパス 教室は未定）

（東京都世田谷区駒沢一丁目23番1号、東急田園都市線駒沢大学駅下車徒歩8分）

今年の会場は、昨年まで長らくお世話になった「お茶の水女子大学」から「**駒澤大学**」に変更になります。駒澤大学での総会・大会開催は初めてのことですが、4月から新校舎の使用が始まる現段階では教室が未定です。今後のJAAS Newsで新しい情報をお知らせいたしますので、総会・大会の会場のお知らせには十分ご注意ください。

3) 総 会：2018年度は定時総会において、役員改選があります。

### (2) 2018年第17回大会のテーマについて

1) 本年度大会テーマ：「**支え合うコミュニティの共創—格差と分断を超えて—**  
持続可能な超高齢社会をめざしてⅢ」

2) 基調講演：辻 哲夫（東京大学特任教授）

3) テーマ設定の趣旨

3か年計画の「持続可能な超高齢社会をめざして」というテーマの下で、過去2年間の大会テーマを、継続性を維持しつつ以下のように段階的に発展させてきました。

①1年目（2016年）のテーマ：現代日本の格差と貧困（基調講演 駒村康平）

②2年目（2017年）のテーマ：分断社会を超えて（基調講演 井手英策）

4) 最終年度テーマ設定の焦点：**支え合うコミュニティの共創**

過去2年間の議論を踏まえて、「持続可能な超高齢社会をめざして」というテーマをさらに深化させるために、以下の点に留意しました。

①「超高齢社会」は「人口減少社会」というもう一つの問題を伴うこと

②格差と分断を乗り越えるためには、「人びとが自立しつつ相互に支え合う関係」を基盤とするコミュニティを共に創り上げることが必要であること

③そのようなコミュニティの持続性を可能にする条件を、国レベル、地方レベルでの社会制度的、文化的環境ばかりでなく、自然環境をも含めて整えていくこと

5) パネルディスカッション

「人びとが自立しつつ相互に支え合う関係」を基盤とするコミュニティを共に創り上げる試みを実践している方々にパネラーとしてご参加いただきます。

### (3) 「持続可能な超高齢社会をめざして」についての提言

第1部総会に続く第2部の初めに、大会企画委員会で進めてきた読書会のメンバーから、今年度までの3年間の議論を整理して、「持続可能な超高齢社会をめざして」についての提言を行います。

## 2. 第4回研究会合同イベント

### 「ライフプロデュース」研究会発足記念シンポジウムの報告

- 1) 日 時：2018年3月3日(土) 14:00~16:30
- 2) 場 所：駒澤大学第2研究館 209号室
- 3) 開会挨拶：袖井孝子(当学会会長)
- 4) 報告者：皆川靱一(当学会理事、研究会座長)、小平陽一(当学会会員)、中村昌子(当学会運営委員)、森木まゆみ(当学会会員)
- 5) コメンテーター：澤岡詩野(当学会理事)
- 6) テーマ：「長命時代—“しなやかに生きる力”を考える」

「ライフプロデュース」研究会発足記念シンポは、この長命時代を、いかに自分らしくしなやかに生



きるかが重要視されていることを背景に、今こそシニア世代には「人生100年時代を生き抜くライフプロデュース」が必要だ、と研究会のコア・メンバーが全員合意。その名を冠した新たな研究会を発足させ、掲げた研究テーマが「自立」「共生」、この二つのテーマを包括する形での「共(響)感」である。テーマへの関心の高さや好天に恵まれたことも作用したのか、60人も参加者(非会員31人)があり、アンケートの回答数・内容も豊富で盛況であった。シンポジウムの詳しい報告は「エイジレスフォーラム」16号に譲り、新研究会の無事な船出を速報でお伝えさせていただきました。(皆川記)

## 3. 2018年連続「読書会」第4回~第5回のお知らせ

企画委員会を中心に1月から進めている読書会は、当学会の3か年の共通テーマ「持続可能な超高齢社会をめざして」の最終年度である今年度の大会テーマ設定、および3か年のまとめの提言にも密接にかかわるものとして企画しております。ご関心のある方にはぜひともご参加いただき、大会での議論を盛り上げるためにご協力いただきたくご案内いたします。

第3回~第5回の読書会で取り上げる文献は、山崎 亮『縮充する日本：「参加」が創り出す人口減少社会の希望』(PHP新書、2016)です。

本書が扱うテーマは、支え合うコミュニティの「共創」という意味での「参加」です。読書会の狙いは、これからの人びとの生活の基盤をコミュニティに求めつつ、国を始めとする行政との関わり、企業との関わり、自然環境との関わり、グローバル経済との関わりについて本書からさまざまなヒントを得ながら議論し、本年度大会での提言をまとめる上での一助とすることです。

#### (1) 第3回読書会(終了しました)

- 1) 日 時：2018年3月14日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局(渋谷パールビル4階)
- 3) 扱う章：序章~第3章
- 4) 担当者：碓 正義

#### (2) 第4回読書会

- 1) 日 時：2018年4月18日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局(渋谷パールビル4階)
- 3) 扱う章：第4章~第7章
- 4) 担当者：未定

### (3) 第5回読書会

- 1) 日 時：2018年5月16日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局(渋谷パールビル4階)
- 3) 扱う章：第8章~終章
- 4) 担当者：未定

※ 参加ご希望の方は、事務局までメールか電話でご連絡ください。

## 4. 研究会からのお知らせ

### (1) 第22回「シニアのICT活用」研究会開催のお知らせ

研究会を再開します！「第22回シニアのICT活用研究会」開催のご案内

今後本研究会は、第三金曜日の14時~16時に開催します。本テーマに関心をもつ方、どなたの参加も大歓迎です。周囲の方にもお声掛けを頂けると幸いです。

- 1) 日時：2018年4月20日(金) 14:00~16:00
- 2) 場所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 会議室

新宿区新宿一丁目34番5号直田ビル3階

<http://dia.or.jp/access/>

- 3) 話題提起者：森やす子(シニア社会学会理事・情報環境デザイン研究所主席研究員)

- 4) テーマと概要：「シニアのICT利用と社会関係」

多くのシニアが生活の中で、コミュニケーションメディアとしてICTを利活用しています。シニアが地域で生活し続けていく際、また他世代と交流する際、ICT活用の場面でどのようなことに直面するのか、今後考えていかなければならない点を示してみたいと思います。

- 5) 参加費：500円

※ 参加のご連絡は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

### (2) 第47回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年4月24日(火) 18:30~20:30

- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室

- 3) 報告者：野坂 真(早稲田大学文学学術院 助手)

- 4) テーマ：地方での災害復興過程における被災構造と地域再建

一岩手県大槌町における住民層ごとの地域生活モデルの再構築に注目してー

- 5) 参加費：500円(ただし、社会人を除く学生、早稲田大学総合人文科学研究センター<現代の危機と共生社会>研究部門および、早稲田大学プロジェクト研究所のメンバーは無料)

※ お問い合わせは、福原(fukuhara@jaas.jp)までお願いいたします。

## 5. 各研究会の概要報告

### (1) 第52回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年2月22日(木) 15:00~18:00

- 2) 場 所：早稲田大学・大隈会館教職員レストラン楠亭会議室

- 3) 報告者とテーマ：佐藤敬さん — 新聞が報じる「事実」「世論」「輿論」から見えてくる「真実」とは?~『ただ在る』こと』の意義をモチーフに~

佐藤さんは、ご自身が購読している東京新聞を通じ、『ただ在る』こと』の意義をモチーフに

「事実」を通して「真実」に迫ることを追跡された。読者からの投書を「世論」に、社説・論説あるいはコラムを「輿論」に見立て、記事の深掘りを行なった。「今思うこと」として、今日社会を覆っている社会的価値観はすべての国民に「がんばり」と「活躍」を強要する現政権の施策が社会の格差の増幅を促しているとの見解を示した。そして佐藤さんご自身の今後の生き方のテーマは、「現代版

『横丁のご隠居さん』というコンセプトであり、高齢社会の“持続可能”な年寄りの生き方に結び付くと述べられた。

濱口座長は、「真実」は「事実」の外在的と拘束性に加えて、普遍的で規制的であること。そして「真実」を書くためには、「イマジネーション」が必要であるとコメントされた。(島村記)

## (2) パワフル・エイジング研究会 (団体会員) からの報告

ご報告が遅くなりましたが、2017年11月18日に、新潟の「パワフル・エイジング研究会」の主催で袖井孝子会長による講演が行われました。同研究会事務局の渡辺美代子さんより、当日の詳細な資料と報告概要が送られてきましたので、ご報告いたします。

- 1) 日 時：2017年11月18日 (土) 14:00~16:00
- 2) 会 場：「アルザにいがた」新潟市男女共同参画推進センター (万代市民会館3階) 302号室
- 3) テーマ：分析社会を超えて~ともに分かち合い、頼り合える社会をめざして~
- 4) 講 師：袖井孝子 (一般社団法人シニア社会学会会長・お茶の水女子大学名誉教授)
- 5) 主 催：パワフル・エイジング研究会  
共 催：アルザフォーラム2017実行委員会・新潟市

### <企画の意図>

現在の日本社会には、「子どもの貧困」「貧困女子」「下流老人」と誰もが貧しいようなイメージがあり、片や一握りの超金持ちもいる。共生社会、多様性のある社会を目指しているにもかかわらず、現実には逆の方向に進んでいる。これをどう克服するかを社会学、老年学、女性学の専門家である講師のお話をきっかけに、参加者とともに考えたいと企画した。

### <企画や集客で工夫した点>

「分断という言葉自体を我が事として心に強く感じていない人が多い現状から、チラシのデザインには思わず手がのびて、参加につながるような力強さを期待した。

### <当日の内容・参加者の反応>

分断社会を超えて、誰もが安心して暮らせる社会を実現するには、特定の世代、特定のジェンダー、特定の集団にサービスが偏りすぎないことが必要。そのためには、お互いが少しずつ譲り合い、自立した個人が緩やかに繋がり合う社会の実現が望まれるという内容であった。分断社会に至る世界の状況まで、分かりやすく教えていただいた。参加者同士もっと話し合う時間が欲しかった、との声もあった。(渡辺美代子記)



一般社団法人シニア社会学会・事務局 (月・水・金オープン)  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階  
電話&FAX : (03) 5778-4728  
eメール : [jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL : <http://www.jaas.jp/>